

全国曹洞宗青年会

sousei

特集

平成十八年度禅文化学林・九州大会「今私たちがすべきこと」

No.136

2007. Jan

# 改歳之令辰 謹伸嘉悰儀



全国曹洞宗青年会

会長 宮寺守正

新年あけましておめでとうございます。

謹んで平成十九年の新春をお祝い申上げ、皆々様のご健勝とご多幸を心より祈念いたします。

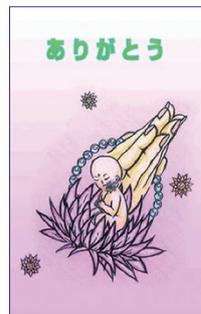
倫理観や道徳心の薄さが問われるこの時代にあつて、私達青年宗侶は何を以て社会に貢献する事が出来るのでしょうか。また伝統教団の一つとして、社会から求められている物は何でしょうか。宗門が掲げる「人權」「平和」「環境」をもとに、私達がそれぞれ生活する地域社会において、出来る事を模索し、青年宗侶らしい勇氣溢れる活動を、本年も推し進めて参りたいと存じます。

本年も皆様からの倍旧のお力添えを心よりお願い申上げ、改歳のご挨拶とさせていただきます。

## 花まつりキャンペーン ～真心のたねをまぎましょう～



パッケージ裏側  
プラスチック包装紙に  
詰めてお届け



表紙デザイン

花まつりの普及に、今年度も継続して運動を展開いたします。つきましては実費頒布いたしますのでご希望の方は左記の要領にてお申し込みください。

### ●内容

三仏忌の説明文を記載した新パッケージに、本物のインドボダイジュを加工した葉脈、花の種、甘茶ティーバッグを詰めて送付いたします。

### ●申し込み数量と費用

一部一三〇円

※五〇部単位でお申し込みください

### ●申し込み方法

郵送・FAX・E-MAILいずれかの方法にてお申し込みください。

### ●申し込み先

〒354-0031

埼玉県富士見市勝瀬470-2

大願寺内 来馬司龍(総務委員)

(FAX)049-254-0822

E-MAIL:hana@sousei.gr.jp

または全曹青HP申し込みフォームより

### ●申し込み期限

平成十九年一月末日

発送予定 平成十九年三月上旬頃

### ●お届け方法

着払いにてお届けします。

## 花まつりキャンペーン申込書

県名		寺籍番号		寺院名	
氏名		電話番号		申込数	部
住所	(〒 - )				



## Contents

### 04 特集 平成18年度 禅文化学林・九州大会

「今 私たちがすべきこと」

- 座談会 パネリスト：山崎 登 氏 (NHK解説委員)  
関 尚士 氏 (SVA国内事業課長)  
荒木 正昭 師 (熊本県地藏院住職 13期全曹青会長)  
宮寺 守正 師 (全曹青会長)
- 「災害と防災の現場から」山崎登氏(NHK解説委員)
- 「大衆教化の接点を求めて」ボランティア活動報告・意見交換会
- 事務局だより (小島宗彦大会実行委員長) / 臨時評議員会開催報告

### 10 全曹青情報局

- 総務委員会紹介

### 12 「EN×EN ぴーぶる」楠山泰道師(横須賀・大明寺住職)

### 15 そうせいインフォメーション [中国管区・鳥取大会] [東海管区・浜松大会]

### 17 青年会モザイク《曹洞宗広島県宗務所青年会》

### 18 世界の重層信仰(6) — 日本における重層信仰 —

### 20 「禅」知識まんだら(7) — ゴータマ・ブツダと瞑想 —

### 22 賛助会員名簿

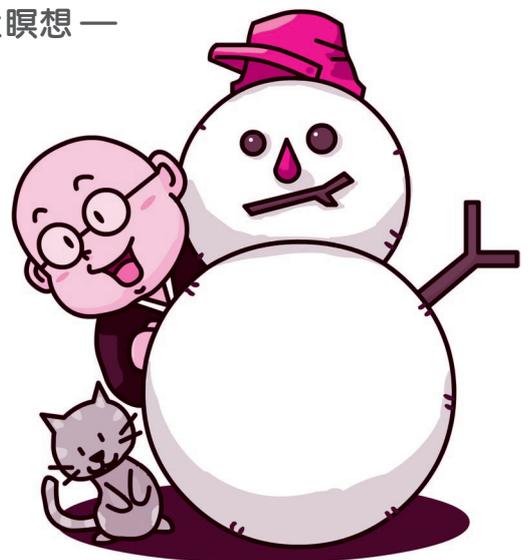
### 24 あまんずそうせい

### 25 寺族の窓

### 26 そうせいサロン

### 27 菜食健美

### 28 そうせい美術館《千の祈り》



# 今私たちがすべきこと

## 平成十八年度禅文化学林九州大会

平成十八年度禅文化学林九州大会が、昨年十一月十三日(月)・第一部、十四日(火)・第二部に亘り、第一部(一日目)の会場を博多市安国寺専門僧堂にて、第二部をアークホテル博多ロイヤルにて開催されました。

第一部では、十三時より、坐禅引き続き本尊上供らつて、十三時五〇分開会式となり、開式の辞を全曹青会長・宮寺守正師、九州曹洞宗青年会副会長・洲文嗣師が述べられ、本大会が開式されました。十四時三〇分より、NHK解説委員・山崎登氏を招き、基調講演『災害と防災の現場から』と題したご講演(六頁に内容の一部を掲載)をいただき、十六時より、座談会として山崎登氏、関尚士氏(社団法人シャントイボランティア会)以下、SVA(国内事業課長、荒木正昭師(熊本県地蔵院住職 十三期全曹青会長) SVA代表議員)、宮寺守正師(全曹青会長)らを迎え、米澤智秀師(全曹青ボランティ

ア委員会委員長)の司会進行により、ボランティア活動の現場における視点から、その必要性と展開性を中心に、活発且つ収束な議論が交わされ十七時に終演致しました(五頁にレポート掲載)。

第二部(二日目)においては午前九時から、宮城県曹青会長・橘智法師より「サンタピアツプみやぎボランティア会」の活動報告をいただき、九時三十分より、埼玉県第二宗務所慈眼寺住職・西山宗洋師より「防災寺子屋」の活動報告をいただきました。その後十時から、全曹青一〇委員会より、災害活動時の利便性も兼ねた、ホームページ「般若」と携帯サイト「全曹青メニユー」の活用報告が行われました。十時十五分より、愛知県第一曹洞宗青年会「いのちのともしびー」この五分で起こっていること」をテーマに、5分蠟燭の頒布事業の報告が行われました。引き続き十時二十五分より、「大衆教

化の接点を求めて」と題した意見交換会がひらかれ、橘智法師、西村宗洋師(埼玉県第一宗務所慈眼寺住職)、荒木正昭師、米澤智秀師らを迎え、大坂恵司師(全曹青副会長)の司会進行により、各師の具体的な実践活動の過程と(成果、並びに今後の課題が浮き彫りになる闊達な議論が交わされました(八頁にレポート掲載)。その後、十一時十五分より閉会式がおこなわれ、持地俊一師(福岡曹青会長)の挨拶によつて大会は無事円成いたしました。

また、今大会の第一部会場をお引き受けいただきました安国寺様には、日頃から賛助会費等でご協力をいただいておりますが、今回あらためて全曹青への活動援助というかたちで格別なるご配慮とご厚誼を賜りました。安国寺様にはここに厚く御礼を申し上げます。

(文中、一部敬称を省略しております。)





右手前より宮寺、関、山崎、荒木、米澤各氏

# 座談会

## パネリスト

- 山崎 登氏(NHK解説委員)
- 関 尚士氏(SVA国内事業課長)
- 荒木 正昭師(熊本県地蔵院住職 十三期全曹青会長 SVA代表議員)
- 宮寺 守正師(全曹青会長)
- 米澤 智秀師(全曹青ボランティア委員会委員長)

**宮寺** 災害のことに関して言いますと、前期からボランティア委員会を中心に防災寺子屋の活動に取り組んでいます。曹洞宗寺院が全国で一万余ヶ寺、他宗を含めると七万五千のお寺があり、僧侶がそれぞれの地域に根差した活動をして地域のリーダーになっていくと、災害があつた時にもお寺が活用されるのではないかと思います。

**関** 災害が起きると、海外の場合は残念ながら国・自治体の力に限りがあり、結果として甚大な被害に見舞われますが、結局は人びとが地域の中で互いに支え合つていかなければなりません。逆に日本

**宮寺** 中越地震(二〇〇四年)の時に、私が所属しています埼玉第二宗務所青年会でも支援についての話になりました。私は被災直後の震度六の余震のある中現地に入りましたが、報道で目にする以上の惨状を見て、「やはり現地に入らないと状況は把握できない」という思いを特に感じましたので、青年会員にも「是非現地に入つて欲しい」という話をしました。

自分も弟や同僚を亡くしているにも関わらず「こういつた状況の中だからこそ、誰かが世話を子どもたちの心に向き合わなければいけない。一番大切なのは、子どもたちの心に寄り添つてあげる人だ。それは私たちにしか出来ないことかもしれない」と言いました。私は返す言葉がないくらい衝撃を得て、これこそボランティアの原点かもしれない、と感じました。

**山崎** 被災地では、被災者一人一人が苦しいんだけれども、周りにいる人もみんな同じような被災者で、なかなか自分の苦しさを言葉にできないです。だから被災地に行つて被災者の話を聞いてあげるだけでも、多分気持ちが一番重い部分が楽になるんです。でも、みなさんには仕事柄、もう一歩踏み込んで欲しい。

の復興活動が進められる中で、その間にも人と人の絆、関わり合いの無さによって、多くの命が失われている現実があります。

**関** 二〇〇三年のイラン南東部地震発生から一週間ほどが経ち、救援物資の調達に依然奔走していた最中のことでしたが、ある時、瓦礫の山と化した被災地の一角から子どもたちの歌声が耳に飛び込んできました。恐らく瓦礫の下からひきずり出したのであろうカラフルなプラスチックの椅子、そして各国の万国旗が掲げられていて、その下で二十名弱ほどの子どもたちが手遊びを交えながら歌を歌っているのです。その場にいた女性に話を伺うと、彼女は園長先生で、幼稚園であつたこの場所で被災した子どもたちを受け入れ、世話をしていると云います。彼女は、

**荒木** これから先、今の子どもたちが大人になつて、果たしてお寺に来るかと考えた時、私はほとんど来ないと思います。今の若者たちは、私たちが思っている以上に、葬儀社の方とお坊さんを『死んでからお世話になる人たち』という同じ枠組みで見ていると思えます。ならば、子どもや若者がお寺に寄れるような理由を、僧侶が作らなければいけません。それには、まずやつてみてから考えようという発想を持つことだと思つてます。色々迷えば、結局何もやらなかつたという状態に陥るんじゃないかな、と考えています。

今、みなさんの地域も病んでるんです。多分みなさんの地域で災害が起きると、今被災地で起こっている色々な問題は、そのままみなさんの地域でも起きます。だからみなさんが普段からそれぞれの地域を見つめて欲しい。そのことが地域の力になり防災にも役立つと思えます。

**荒木** 私が参加した阪神淡路大震災(一九九五年)での炊き出しのボランティアが一段落した後、まだ避難生活を余儀なくされている方がたにお見舞いの言葉でもかけたらと改めて現地へ赴きましたら、被災者の方から「お坊さん、精神的に苦しいんだから何か少し話してよ」と言われたのがきっかけで、その後も定期的に神戸で被災者の方にお話をさせていただきました。

みなさんが地域の中で発言し行動すること、地域が待っています。今世の中で起きていますさまざまな問題を見ると、倫理・哲学・宗教ということに携わっている人たちが発言しなければいけない。それに目を瞑らないで欲しいということが、今日私が是非みなさんにお願ひしたかったことです。

# 災害と防災の現場から

NHK解説委員 山崎 登

これまで、自然災害と防災の取材を二十年くらいやってきました。今日は、災害の現場に出かけていって、考えたり、感じたりしたことをお話しさせていただきます。

一、地震はどこでも起きる

十一年前に阪神淡路大震災が起きましたが、関西の人たちは、とても驚いたんですね。それまで関西には大きな地震は起きないと思っていたからです。

わかつては、日本にはおよそ二千の活断層が日本にある中で、主な九十八の活断層について調査されていたのですが、阪神淡路大震災後に、実際に被害があった地震は、その中に含まれていない未知のところでも起きました。日本の地震学は相当進んでいますが、それでも、分かっていることより、分かっていないことの方が多いのです。地震は、どこで起きてもおかしくないということです。

## 二、増える水害

最近、一時間に百ミリ以上の雨が頻りに降ります。全国の都市の下水道は、一時間に五十ミリから六十ミリの雨まで対応するように作られています。最近の豪雨は想定外力を超えています。そして、治水対策の限界というべきです。そこで、都市が水浸しになる水害が増えているんですね。

もう一つ、最近の風水害の特徴は、土砂災害の死者が増えていることです。近年の自然災害の死者の、およそ半分弱は土砂災害によるものです。崩れそうな斜面近くに人間が住むよう

になり、危険箇所が増えました。また、地方の中山間地は高齢化と過疎化が進んで、高齢者を助けられる人が少なくなっています。

そうした中、情報を重視して、早めに避難してもらおうという取り組みが進んでいます。しかし、情報によって避難を進めるには大きな課題があります。

二〇〇四年の台風で、兵庫県の豊岡市は一面水浸しになりました。このとき、豊岡市は、早い段階で、避難勧告、避難指示を出しましたが、実際に避難したのは、避難対象者の十パーセント以下でした。その年の暮れにアンケートをとったところ、「避難勧告の意味を知らなかった」「避難勧告と避難指示の意味の違いがわからなかった」というようなことが書いてありました。

つまり、避難勧告や避難指示の意味や、発表されたときにすべきことを普段から伝えておかないと、いざというときの情報が力にならないのです。

## 三、高齢者対策

最近、地震でも水害でも、高齢者の犠牲者が目立ちます。日本は急速に高齢化していますから、どの自治体で



満場の聴講者も熱心に聞き入る

災害が起きても高齢者対策を考えていかなければなりません。

しかし、高齢者対策と一言で言いますが、これはなかなか難しいですよ。たとえば、阪神淡路大震災のとき、被災者は、最初、体育館などの避難所に集まり、次に仮設住宅に移りました。その後、自力で家を建てられなかった人は、公営の復興住宅に入りました。復興住宅では、以前のようなコミュニティを作る力を失ってしまったお年寄りがたくさん出て、それが、孤独死という問題となって現れました。

活動状況が目に見えるように具体的に語られる



そういう教訓を生かさなければい  
うことで、新潟の中越地震のとき、山  
古志村は、避難所の段階から、家族や  
地域のまとまりを崩さないように工夫  
しました。

普段地域に隠れている高齢者の問題  
が、災害のときに、一気に顕在化しま  
す。だから、普段、地域の高齢者のことを知  
らないと、災害時の高齢者対策は取れ  
ないということ。

#### 四、地域の防災力

災害が大きくなると、防災機関の手  
には負えなくなります。つまり、地域  
の力がとても大事になります。とりわ  
け、地域のリーダーと拠点が大事だと  
いうことになると思います。

水害のハザードマップというのを、  
今、各地で作ろうとしています。ハザ  
ードマップは、どこにどんな被害が出る  
恐れがあるかや避難所の場所を地図上  
に記したもので、自治体で作ります。  
したがって、避難場所は、すべて、小  
学校か中学校か公民館です。民間の家  
を避難場所にすることはできません。  
しかし、そうした自治体が定めた避難  
所は遠かったりすることがあります。  
そんな所まで、地域のお年寄りや体の  
不自由な人を連れて行くことは難しい  
として、地域の人たちが集まって、地  
域を見回って、地域のお寺を避難所と  
してハザードマップに書き込んだこと  
もありません。

自治体することには、どうしても  
限界があります。そうした中でも地域  
の防災対策を具体的に進めていかなけ  
ればなりません。

#### 五、被害を決める要因

被害を決める要因は、三つあるとい  
われています。

一つは、季節・天候ですね。阪神淡  
路大震災は、冬に起きて空気が乾燥し  
ていたことから、火災が燃え広がしま  
した。それから、時刻。明け方に起き  
ましたから、亡くなった方のほとんど  
が、壊れた住宅に押し潰されて亡くな  
りました。三つ目は、地域性。たとえ  
ば、あの震災が、もっと人口の密集し  
ていない地域で起きていたら、被害の  
様相は変わっていたでしょう。つまり、  
防災対策は、それぞれの地域が地域の  
特性を踏まえて考えていく必要がある  
のです。

#### 六、被害を減らす

防災対策として、大きなことも大事  
だけれど、小さな取り組みも大事です。  
たとえば、阪神淡路大震災でたいへ  
んだったことの一つはトイレです。水  
洗トイレは、水が止まってしまうとた  
いへんです。そんな状況でしたが、ある  
お宅では、バケツに水が汲んであって、  
トイレを流せるようになっていまし  
た。話を聞くと、お婆さんが関東大震災  
の被災者だったということで、お風呂  
の水は必ず汲み置きと言われて、その  
ようにしたんだそうです。防災とい  
うのは難しいことじゃないんだ、一つ備  
えれば、その分楽になることが一つあ  
る、これが防災なんだと思いました。

NHKの災害放送について  
ちよつとお話しします。災害放  
送の始まりは、昭和二十九年の  
洞爺丸台風だといわれます。こ  
の頃、テレビは、洞爺丸が転覆  
して何人の方が亡くなりました。  
と、被害の結果を伝えていきます。  
しかし、結果だけ伝えても被害  
を減らすことはできません。  
今のようになら、台風の現在位置、  
勢力などを伝えるようになった  
のは、昭和三十四年の伊勢湾台  
風からでした。それは、予報は  
予防につながるという考えで  
です。

#### 七、まとめ、最近の災害が教えたこと

最近の災害が教えたことは何かとい  
うと、一つには、地震はどこでも起き  
るということです。それから、台風や  
集中豪雨を軽視してはいけないとい  
うことも挙げられます。また、地域の防  
災力を高めなければならぬというこ  
とです。そして、四つ目は、普段の備  
えが、いざというときに生きるとい  
うことです。

みなさんが、地域のリーダーとして  
防災を担っていたら、私とも、今後の防  
災を考えていきたいと思います。

#### ○山崎 登(やまざき のぼる)

昭和二十九年  
長野県大町市生まれ

昭和五十一年  
NHKに入局

盛岡局・佐賀局・長野局で勤務  
昭和六十三年

東京の報道局社会部の災害班に所属  
伊東沖海底噴火・イラン地震・釧路沖地  
震・スーパー長崎屋尼崎店火災などを取  
材

平成三年

「特報首都圏」キャスター、  
平成六年

名古屋局で「ウイークエンド中部」キャ  
スターを担当  
平成七年

阪神淡路大震災を取材  
平成十年

報道局社会部で災害班デスク  
平成十二年

NHK解説委員(自然災害・防災担当)

台湾地震・有珠山噴火・三宅島噴火・東  
海水害・鳥取県西部地震・新宿歌舞伎町  
の雑居ビル火災を現地取材。ほかにも東  
海地震対策・水害や土砂災害などを取材。



地域における寺院の重要性が防災活動にも  
強く反映されると講じられる

かつて「一吹き千人」と言わ  
れていた台風災害は、最近はその  
頃に比べると、随分被害が少  
なくなりました。その要因と  
して、情報の力も大きいと思っ  
ています。

本年一月十七日で、「阪神淡路大震災」から十二年の月日が経ちます。一方、東海地震・南海地震、そして東南海地震や首都圏直下型地震への警鐘が鳴らされる今日、私たちは災害に対して何を備えればよいのでしょうか。非常食・飲料水などを備えることも大切なことです。しかし、自分の地域や、地域に暮らす仲間を知り、共に支え合える関係を育んでいくことも大切なことです。そこで、本大会では実際に防災活動を行っている宗侶の方がたをパネリストに招き、意見交換会を催しました。

パネリスト

- 荒木正昭 師 ● 米澤智秀 師
- 橋 智法 師 ● 宮城県曹洞宗青年会会長、サントピアアップみやぎボランティア会会長
- 西村宗洋 師 ● 埼玉県第一宗務所慈眼寺住職、十五期全曹青ボランティア委員

司会

● 大坂恵司 師 ● 全曹青副会長

**大坂** 本禅文化学林第二部会のチームでもある、「大衆教化との接点」に則して、その「接点」を中心として、活動の展開から地域の方がたとの横の繋がりがどのようになつたか。その後の寺院での教化活動にも変化ができた等の感想や今後の展望をご披露いただければと思います。先ず、橋さんの活動「サントピアアップみやぎボランティア会」ではいかがでしょうか？

**橋** 海外教育支援のきっかけは、カンボジアの未だ改善されていない教育環境の現状を多くの方に伝える役割があると考えたからです。そして、宮城県曹青として支援を始めてから約二十五年の経過時間がありますので、先ずは先人の方がたが、どのような思いで関わってきたかを回顧し、現会員の意識啓発が必要であると思えます。会員・協力者には活動報告や

現況報告を定期にしております。また他団体の方がたとの交流もありますので、私たちとは異なるものの捉え方に出会い、そこから自らを省みることもできることが会の魅力であると思います。そして、これからはもつと日本の教育現場や高齢者の方がたなども接点を増やしていかなければと考えております。

## 大衆教化の接点を求めて 意見交換会

他宗教など、人の縁との関わりができ、SVAでは災害支援サポーターとして情報交換等の活動しております。

**大坂** 米澤さんも、現全曹青ボランティア委員長で、御自坊でも防災寺子屋の活動をされておられ、社会福祉協議会の依頼で活動されているとのことでしたがいかがでしょうか？

**荒木** 人びとの繋がりが一番大事であると思うことは、自分が防災で感じていることは、自分が何かをやらなければならぬと思ひ、子どもや人を集めたりといつ考えるのですが、お寺の場を提供することで、忙しい方などは自分自身がしなくても出来る活動はあると思うのです。また、連絡協議会等との連携を図れば、何倍もの力になることを知らなければならぬと思ひます。神戸の大震災では、タイの貧しい子ども達から義援金が送られたときには涙がでる思いでした。この豊かな社会で生きている私たちは、そのような心を持っているかどうかと、自分自身に問ひかける機会になりました。自分から動けば、その動きを受ける方は必ずいるはずですよ。

**米澤** 私どもボランティア委員会では、参加者八十名ほどの小規模の防災寺子屋活動を目指して活動しております。社会福祉協議会に後援依頼をしたところ、多大なる協力をいただきました。以前、いくつかの防災訓練を行いました。子ども達と一緒に活動した際には、一人の和尚が防災活動しているとして、敢えて作務衣姿に

活動し、どのような人でも必要な活動であることを提示しております。また、今までの活動で感じたことや開催するにあたる不安・迷い等、困難な状況を記録しておりますので、今後どなたでも気軽に防災寺子屋の活動ができるようになりますので、来年の総会にあらかじめご報告させていただきます。

**大坂** それぞれの活動でのご縁や接点によって、活動自体も成り立つものだとということが痛感されました。荒木さんは阪神淡路大震災での活動体験があるということでしたが、そのご縁から「大衆教化との接点」をとおしてお話しいただけますでしょうか？

**大坂** 皆さまの活動は、さまざまな他団体との一線を一步踏み込み、接点を横につなげた形の活動であり、たいへん貴重な意見であると思ひます。この意見を本日参加された方へは、今後の各曹青会活動等の参考にして役立てていただきたいと思います。

**大坂** 先ず、考えるよりも行動に起こすということが、なかなかできないのですが、そこを一步踏み出すことが必要であり、その一歩



左から橋・西村・荒木・米澤各師  
それぞれの活動を通じた意見が述べられる

# 事務局 だより

## 禅文化学林九州大会開催にあたり

大会実行委員長 小島 宗彦

(九州曹洞宗青年会会長)

春は花 夏ほととぎす 秋は月  
冬雪さえてすずしかりけり  
道元禅師の和歌に、面山禅師は「本来の面目」と題されました。本来つまり、あたり前に気づいていくこと、今私たちがこの身で体現していくことであります。道元禅師は、単に自然の移り変わりを詠まれたばかりでなく、発心・修行・菩提・涅槃の行持道環を四季に響えて詠まれました。青年僧侶は、今だからこそ、懼れずに深く思い行つてゆくことが必要です。

近年、自然の猛威は地球規模で振るい、自然災害は避けては通れぬものとなっております。人類が、発展という名の下に犯してきた自然破壊は、地球温暖化や森林伐採による砂漠化を齎らしてきました。自然と共に生きる私たちは、災害や異常気象に直面していることとなります。阪神淡路大震災の起きた一九九五年はボランティア元年と呼ばれますが、神戸では多くの青年僧侶が炊き出しをし、寒い車中で寝起きし、かじかんだ手で水を運びました。あれから、多くの災害に遭い、被災者の方々と同悲・同苦を共有しながらも、私たちは何をすべきなのか、私たちに何が

できるのかを、自問自答して参りました。昨年の十一月十三・十四日の両日、禅文化学林九州大会を開催し、第一部を「今 私たちがすべきこと」と題し、災害の実際と防災について、NHK解説委員山崎登氏に基調講演をいただき、災害現場から防災について学び、僧侶あるいは寺院としてなすべき事を考察していただけたのではないかと思えます。第二部は、地域の青年会で行われているさまざまな活動の発表を通して、今後の青年会活動や、寺院での布教活動に繋がる活発な意見交換と意見開陳の場として「大衆教化の接点を求めて」を開催いたしました。

禅文化学林を開催いたしました博多は、道元禅師が宋へ出立された地です。若き道元禅師の求道の志には及ばぬまでも、篤志の青年僧侶が結集し、共に研鑽する大会になったと考えます。最後になりましたが、会場をご提供いただきました安国寺専門僧堂堂長老師はじめ山内各位、ご法援下さいました諸師の皆さま、また、全国より趣旨にご賛同いただきご参集いただきました参加者各位、関係諸師に心より深く御礼並びに感謝申し上げます。

## 臨時評議員会 開催報告

去る平成十八年十一月二日(木)午後一時三十分より、曹洞宗檀信徒会館三階桜の間に於いて、会員諸師八十名の出席のもと、平成十八年度臨時評議員会が開催されました。開会の辞を香村一孝副会長が述べられ、三帰礼文唱和の後、宮寺守正会長の挨拶が述べられました。その後、宇田治徳師(曹広青)が議長として選出され迅速な議事進行により、左記の議案が可決されました。それぞれの委員会活動は継続的に進んでいることが報告され、午後三時に、門脇昌文副会長によって閉会の辞が述べられ、無事閉会いたしました。



### 第一号議案

総務委員会活動経過報告・広報委員会活動経過報告・青少年教化委員会活動経過報告・ボランティア委員会活動経過報告・法務委員会活動経過報告・IT委員会活動経過報告・事務局活動経過報告・会計中間報告

### 連絡事項

- ・全日本仏教青年会活動経過報告
- ・小島宗彦理事より十一月十三日(月)・十四日(火)開催予定禅文化学林九州大会について
- ・長野県第二曹洞宗青年会よりボランティア活動、並びに支援金への御礼
- ・鹿児島県曹洞宗青年会より支援金への御礼
- ・平成十九年度総会日程について
- 定期評議員会 平成十九年五月九日(水)
- 中央研修会・定期総会 平成十九年五月十日(木)

# 全曹青情報局

## 委員会紹介

### 総務委員会

総務委員会は、前身の総合企画事業研修委員会からの事業を継続しつつ、総務的役割を踏まえ、事務局・会計との連携を密接にとり、事務作業の効率化、各委員会事業の円滑運営を図ることを目的として活動しています。

#### ◆禅文化学林開催地との連絡・協議

禅文化学林は昭和五十三年十月二十三日、大本山總持寺において第一回目が開催されて以来、時代に即した形で催されています。近年では平成九年度の九州・大分大会の開催以降、各管区の皆さまのご協力のもと、幅広いナマの声を反映できるよう、全国各地での開催が主流となっております。平成十七年度・禅文化学林は平成十七年十一月二十三日～二十四日、岐阜市において「今、命を見つめる」こと私たちの未来のために」をテーマに、「第二十九回東海管区曹洞宗青年会大会」「曹洞宗岐阜県青年会三十周年記念大会」を併催して、転読大般若御祈

禱法要、講師にアルピニストの野口健氏をお招きしての講演会、タレント・エッセイストの高木美保氏と野口氏の対談、東海管区内各曹青会の活動発表を交え、「今後の青年会活動を見つめる」をテーマにした発表会など、これからの教化活動をいかに実践していくのかを、参加者の皆さま方と一緒に考えてまいりました。

平成十八年度・禅文化学林は平成十八年十一月十三～十四日、福岡市において「今 私たちがすべきこと」大衆教化の接点を求めて」をテーマに、近未来に起こりうる災害にどう対処すべきなのか、地域の中で寺院がどういう役割を果たせるのかを参究すべく、NHK解説委員・山崎登氏を講師に『災害と防災の実際』と題してご講演いただき、引き続き山崎氏、SV Aの関尚士氏、第十三期全曹青会長・荒木正昭老師による座談会を行いました。また、「防災寺子屋」と「サンタ



平成十七年度・禅文化学林  
(転読大般若御祈禱法要の様子)

ピアップみやぎボランティア会」の活動を通して、地域の青年会がどのような活動をし、成果を得ているのかを発表していただきました。このほか、会場のホテルロビーにおいて全曹青の頒布物、活動報告を中心としたブースを設営し、各委員会の活動を参加者の皆さまに紹介させていただきました。

両大会とも、何度か開催地に出向し、打ち合わせや準備をしていく中で、開催地の皆さまの篤い情熱を肌で感じさせていただくことができました。

開催にあたって企画から運営までご尽力いただきました管区ならびに地元曹青会、関係各位の皆さまにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### ◆花まつりキャンペーン

このキャンペーンは平成四年に「生きるための仏教、生きる支えとしての仏教」を前面に打ち出し、「弔事としての仏教法要ではなく、慶事としての仏教法要」として「花まつり」を掲げ、

社団法人全国生花商協会とタイアップしてポスター、メッセージカードの配布を行ったのが始まりです。毎年、実費頒布している「真心のたねをまきましよう」と記した花の種、甘茶、三仏忌の説明をつけたセットは、阪神淡路大震災追悼法要において配布されたのが始まりとされています。

第十六期においても、この事業を継続し、皆さまにお届けさせていたただいておりますが、昨年より甘茶の高騰により、一部あたり一〇〇円という価格の維持が困難な状況となりました。そこで当委員会では、パッケージ・デザイン・内容物について見直しを行い、新たなスタイルを提案させていただきました。

今年度は、新デザインのパッケージに三仏忌の説明文書を記載し、甘茶のティーバッグと花の種、インドポダインジュの葉脈を詰めて、一部あたり一三〇円にて実費頒布します。

すでに原案・業者・価格を決定し、受付を開始いたしました。詳細は、本誌2ページに掲載しております。

#### ◆頒布物の管理・受注・発送

過去に発行された全曹青の頒布物の管理（データもしくは現物）、委員会から発行された頒布物の受注・発送業務を行っています。今期は青少年教化委員会の「ほとけさまの知恵袋」、法

平成十八年度・禅文化学林  
(会場ロビーにて)  
花まつりキャンペーンの紹介



式委員会のDVD「祈禱太鼓の手引き」の受注・発送を行いました。担当委員が檀務の傍ら受注・発送を行っているため、発送遅延等でご迷惑をおかけいたしました。

◆曹洞宗報「そつせい号外」への入稿  
第十五期までは事務局が本庁への入稿を毎月行っていました。事務局業務軽減のため、今期より当委員会を担当することになりました。毎月発行ということ、比較的早く執行部の動向をお伝えできるよう、つとめてまいり

ます。また、「そつせい」表紙デザインの変更に伴い、「そつせい号外」のタイトルデザインも本年一月号より変更いたしました。

◆活動報告集作成

平成十七〜十八年度の各曹青会の活動内容を報告していただき、委員会ですとまとめます。前期までは冊子にしておりましたが、今期は試験的に全曹青ホームページ「般若」にて紹介する予定です。

◆事務局業務の補佐

委員会の名称変更とともに新たに職務として加わりました。具体的には、評議員名簿の管理、評議員会案内状の発送・出欠確認、各曹青会名簿・管区大会関連書類・各委員会議事録の管理のほか、執行部会・理事会へ毎回委員一名が出向し、事務局庶務の補佐をしています。

◆今後の展望

総務委員会は、継続して行われる本会事業を中心として行うという他委員会とは異なる性質を持っています。諸先輩方が築きあげてきた伝統を継承しつつ、新しい可能性を求め、よりよいものを作り上げていきたいと考えております。

(総務委員会委員長 中村嘉秀)

各委員  
コメント

委員長 中村 嘉秀

(愛知県第一曹洞宗青年会)



より充実した魅力ある全曹青の活動の一助となるよう、新たな可能性を求めて進んでいきたい。

副委員長 山根 宗信

(曹洞宗鳥取県青年会)



広い視野と高い目標意識を持ち、自己研鑽に励むと同時に、全曹青の一員として発展に努めたい。

委員 森 如謙

(曹洞宗岐阜県青年会)



任期も残すところわずかですが、いただいた仏縁に感謝し、任をまっとういたします。

委員(庶務) 奥村 孝裕

(北海道第二宗務所青年会)



諸先輩の足手まといにならぬよう、日々精進してまいります。宜しくお願いたします。

委員(会計) 来馬 司龍

(曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会)



持続可能な組織づくりには、地味な仕事こそ重要です。労をいとわず最後まで頑張ります。



# ぴーぷる

## 社会で市民権を得ていくために

日蓮宗 大明寺住職 楠山泰道 師

今号は横須賀で青少年問題に取り組み、特にカルト問題を中心に活動を展開している楠山泰道師を紹介します。ガンを克服したとはいえ、身を粉にして奔走するその姿に、宗派を超えて若い僧侶が影響を受け、第二の楠山師も生まれてきています。そのエネルギーはいつたどこから湧いてくるのでしょうか。師の熱い思いを聞いてきました。

—先生は現在、青少年の電話相談や脱カルト問題に取り組んでおられますが、その活動にいたった経緯についてお話を聞かせて下さい。

【楠山】 もともとは、大明寺の末寺の副住職でした。その傍ら、近くにある三浦高校の教員を三十年やっていて、非行問題、暴走族対策やいじめ問題に取り組んでいました。その頃日蓮宗では、社会教化事業協会というところで福祉活動をやるという話を持ち上がり、そのときも私が引っ張り出されました。私は三十代でした。宗門としては、これから来るべき高齢化社会の問題について、介護という切り口で福祉をできないかという考えでした。そ

のとき私は「ちよつと待つてくれよ。その高齢者をみるのは一体誰なんだ」という話をしました。高齢者をみる若者を教育していかないと、誰も面倒をみなくなるのではという危機的発想があつたんです。

—現場で実践されていたからこそ危機的な思いがあつたのですね。現在も子どもたちを取り巻く環境はたいへん厳しいものがあると思います。その当時にはなかつた新たな問題も出てきています。若い人の仏教離れも進んでいますし、各宗派とも若者へのアプローチは課題であるうかと思えます。

【楠山】 そつですね。そこで日蓮宗では、子どもを育てる福祉を展開してい

こうと、社会福祉法人を申請して立正福祉会全国家庭児童相談室というのを立ち上げることになりました。そこにくるまでにはたいへんな苦労がありましたが、宗門の上の方がたが、「み仏の子どもを育てようよ」という発想にようやく切り替わってくれました。そんななか、子どもが統一教会へ入信したという両親からの相談が飛び込んできました。最初は何もかもわからなくて、たいへん困りました。通常の青少年問題とは違って、背景に宗教という教義があるからです。しかし聖書を読んで勉強しながら、三ヶ月がかりで女の子をなんとか脱会させました。

その女の子の場合、親は被害者の会を通じてキリスト教の牧師さんのところへ行っていました。オウム被害者の会の親たちも、相談の窓口がなくて、キリスト教の教会へ相談に行っていたのです。ところがオウムの場合、チベットの仏教をかざしていたもので牧師さんが困つちやつたわけです。それで、誰かお坊さんでないかということで私も話がきたのです。これがカルト問題に関わるきっかけになりました。—とても難しい問題が飛び込んできたわけですね。当時仏教界としてはその問題を避けてきたと思いますが、真剣に向かい合つていったその姿勢に頭が下がります。

【楠山】 私がこの問題に関わることにしたのは、そのときの相談者が、日蓮宗の檀家さんだったということがあります。もちろん他宗の方もたくさん

いました。皆さん様に話すのはお寺に相談へ行つても、門前払いされてしまつという事実です。ひどい場合は、奥から週刊誌を持つてくるだけだったり、「祈つておきます」という一言だという、お坊さんのその対応にショックを受けたらしいのです。「私も日蓮宗の坊主です」と言つたら、「知っています。坊さんはとても信用できません」という具合でした。キリスト教の牧師は信用できても、坊さんは信用できないと言われた。そこで「わかりました、あなたの子どもが脱会するまで、私はこの問題から絶対手を引きません」となり、このことがすべての始まりになりました。一方、仏教界の反応といえば、我が宗も含め「そんな危ないものに手を出すな」とか「正しい宗教は生き延びていく。悪い宗教は放つておけば滅びる」というものでした。そこで自分の身は自分で守らなければならぬと立ち上げたのがJDC（日本脱カルト協会の前身）です。横浜弁連の滝本弁護士さんとか小野弁護士さん、東京第一弁連の弁護士さん、キリスト教の牧師さん、社会心理学者、精神科医と一緒に組んでくれました。この問題を専門に研究して対処していくことと、さらにこの問題にのめり込んでいきました。

—そつした活動を支える先生の僧侶観についてお聞かせください。

【楠山】 まずわれわれは、宗教法人を名乗っています。公益法人ということですから、私に言わせれば、社会

熱く語る楠山泰道師



にこもつていたらなかなか市民権は得られませんか。

【楠山】でも本当はやめたいです。もつと楽しみたいから。この問題をやっている年間三万件以上相談があるわけだから、体がポロポロになつてしまふ。でも次から次へとカルト問題が後を絶たないわけだから、脱けられないんですよ。

—すさまじい相談件数ですね。我々も社会に身をおいていながら、未だにカルト問題で悩んでいる人がたくさんいるとは想像していませんでした。なぜ青少年と関わるのでしょうか。

【楠山】私はね、お釈迦様が教えたのは、仏様の子どもをつくらなさいいけないということだと思います。仏様の子どもをつくらなさいいけないということは、われわれ、得度つていう仏教の言葉があるように、悪を成さず、善を行える子どもをつくることだから、子どものあるところにその人格を植えつけなさいいけないわけです。植えつける教育をすることがお寺の役目。だから寺子屋です。その役目は予防です。カルト予防にひきこもり予防ですよ。今仏教界は、もろ手を挙げてこれをやらなさいいけないんじゃないですか。

—日本は予防という発想がなかなかできてきませんね。だから青少年への仏教的なアプローチが必要なんです。

【楠山】オウム問題でどれだけの人があのサリン事件を宗教テロだと認識したでしょうか。私はあれは社会に対するテロだったと考えています。オウ

ムの仏教原理主義というの、今の仏教が墮落しているから元へ返せという原理主義なんです。オウム信徒に「寺は風景に過ぎず」と言われたんですから。もつとひどいのは「日本の寺の中には信心がない」とも言われました。

【楠山】私は怒らなさいけません。私は無性に腹が立ちました。腹が立つたと同時に自分が情けなくなり、坊さんを辞めたくまりました。おれは坊さんらしいことを何かやったのかなと思つたからです。修行して、お経を上げて、法要ができりやいい。そんなのは坊さんじゃないつて、初めて思い知らされたんです。

—わが身を振り返り耳が痛い話です。

【楠山】仏教の教えを説くということとは、先ほど言ったように、その予防策をもつて人を育てることだと思います。そして仏の子を作るんだから宗派だ何だを超えて、やらなさいいけない。袈裟衣を取つても、坊さんでなさいならない。坊さんは、坊さんという前に教師でなさいならない。社会を教え導く人でなければならぬ。坊主という字は土方の主と書きます。市民の中で土方をやりながら、その主となつて人を教化していくことです。私はそういう僧侶観、人生観をもっています。

—日々の檀務、法務に追われ、それだけいいのだからとモヤモヤした思いを持つた若いお坊さんもいると思います。だけど何をするのがお坊さんなのか、自身の僧侶観が確立できていな

い場合が多いようです。何かアドバイスがあればお願いします。

【楠山】きれいな言葉で言つと「感動のない人生は味のないおかずである」ということです。坊さんである以上、本当にたくさん感動を得てほしいんです。感動を得ることは、やっぱり自分に気づいてほしいということ。坊さんは、人に気づかせるための勉強はしているけど、自分に気づくことが欠けているのではないのでしょうか。そうしたら、その気づきをもって、感動をたくさん得て、感動を与えられる仕事をしてほしい。例えばこんなことがありました。阪神淡路大震災で、救済活動にでかけたときのことです。一軒のつぶれた家の前で、女の子がじつと家を見ていました。どうしたのと声をかけたら、まだお母さんとお父さんがこの中に埋まっていると言つてます。もう死んじやつていって。私は曲がりなりにも僧侶としてお経をあげたんですね。そうしたら、ポケットから三千元を出すんですよ。当然もらえないじゃないですか、家がつぶれて両親もなくなったそんな状態で。だからそれはもらえない、これからのために使いなさいと言いました。そうしたら泣くんですよ。もらつてくれないと、両親がうかばれないからとね。そのときのお布施が本当の布施だったのかなと思えます。これは感動なんです。自分でできることをやればいいのだと思えます。それと「何で自殺者が三万七千人もいるの」「何で百万人以上もひきこ

りてくるのか」といふ話も聞かれました。救済できて初めて立派な坊さんなんです。法要ができてお経が読めればいいんじゃない。檀家制度と伝統の中にあぐらをかいていたら、社会から相手にされなくなり。葬儀にしても、お坊さんを相手にしてないし、飾り物にしか過ぎない。やっぱり社会でどう必要とされるかにつきます。必要とされることは市民権を得ることです。坊さんが市民権を得なさい駄目です。

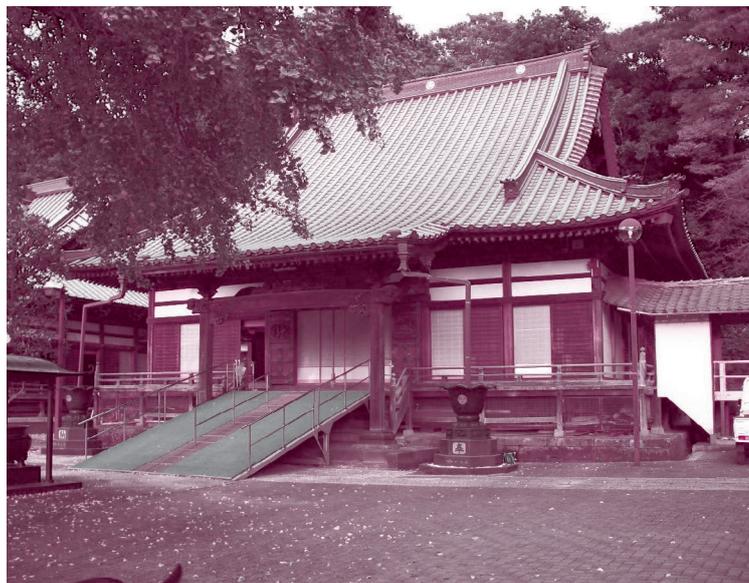
その意味で、私は命懸けでこの問題に取り組んでいきます。私の宗教活動そのものなのです。社会で起こっている問題を分析し、それをどう解決できるか、その中にカルト問題があるので

—社会に根ざした生き方ですね。お寺

もるの「何で仏教がいらなくなつちゃうの」という、この「何で」を自分の中に問い掛けて、「何で」の一つを解消しようとする気つきを自分の中につくことだと思えます。今の若いお坊さんは「何で」がなさ過ぎちゃう気がします。

「耳の痛い話です。ところで先生はどんな青年だったのですか。」

【楠山】 われわれの大学時代は、全学連の真つ最中で、親父が住職で保護司でしたが、「保護司のせがれなのに困ります」と言われるくらいやんちゃで暴れ回ってました。



地元市民の憩いの場ともなっている大明寺本堂

「将来はお坊さんになると思っていましたか。」

【楠山】 絶対嫌でした。親父がものすごく厳しかったんです。こんな思いまでして、何で坊さんにならなきゃいけないんだと思っていました。でも親父は、陰ながらうまくマイノリティ・コントロールをかけてたんですね。(笑)。出会いもありました。私を認めてくれていた高校の新任の先生だったのですが、「おまえはこのままじゃ駄目だから、必ず大学へ行け」と言って病気で亡くなったのです。最後の遺言でした。そのことがずつと残っていました。坊さんじゃ親父に勝てないし、何とかお寺を逃出す方法はないかって、教員の資格を取ったのです。

「そして結局嫌だったお坊さんになりましたね。」

【楠山】 やはり出会いと気づきだらうと思います。こんなことを言ったら、怒られるかもしれませんが、お釈迦様が悟りを開いたときも、日蓮聖人も、白隠さんも聖者は三十代で気づかれています。三十代というと、社会が見えてきて、さあ自分は何をするかという迷いがありますね。そこで気づかな

くちやいけない。私の場合は、その気づきが自分を変える大きな要因となりました。もちろん人との出会いも大きい。でも一番はオウムとの出会いかな(笑)。これは坊さんとしての私の人生を大きく変えた。何が坊さんなのかオウムから教えられましたね。

### 社会福祉法人 立正福祉会とは

全国家庭児童相談室を全国28ヶ所に設置して、各地で日蓮宗の僧侶(教師)が青少年の問題に関する相談にあたっています。この全国の家家庭児童相談室の中で、特に青少年の問題に限定して対応しているのが「青少年こころの相談室」です。

### 日本脱カルト協会 (JSCPR) ウェブ <http://www.jscpr.org/jscpr.htm>

設立は1995年11月、心理学者、聖職者、臨床心理士、弁護士、精神科医、宗教社会学者、カウンセラーそして「議論ある団体」の元メンバーやご家族等のメンバーから構成されているネットワークです。本会は相談機関ではありません。破壊的カルトの諸問題、カルトに関わる個人および家族へのカウンセリング経験についての交流およびカルト予防策や社会復帰策等の研究をおこない、その成果を発展・普及させることを目的としています。

仏壇・仏具製造直売 白衣・作務衣  
各宗寺院用具取扱 足袋・ベッス・草履  
甲州印伝・貴石念珠 各種線香・ローソク

静岡市職員互助会指定店 曹洞宗梅花講指定店

有限会社 **利照堂佛具店**

〒420-0011 静岡市葵区安西4丁目61-4  
TEL 054-254-6990 FAX 254-7023

### 心がかよう 心のふれあい

皆さまのお宿として、お気軽にご利用ください。

ご宿泊	レストラン
朝食付お一人様料金(税・サ込)	1 F ジラソーレ 10:00~22:00
シングル 8,925円より	(コヒーショップ)
ツイン 6,825円より	6 F パンセ 朝食 07:00~10:00
ダブル 7,875円より	(和洋食) 昼食 11:30~14:00
トリプル 5,250円より	土日祝休業 夕食 17:30~22:00

各種お弁当・出張パーティーも承ります。  
お気軽にお問い合わせください。

東京グランドホテル・曹洞宗檀信徒会館

〒105-0014 東京都港区芝2丁目5番2号 TEL 03-3456-2222  
宴会予約 03-3456-0511 レストラン予約 03-3454-5245



# そりせいんフオメーション

## 「中国管区大会」

### 寺院の将来はどうなる？ 今、再生をかけて

去る平成十八年十一月二十一日(火)、二十一日(水)の二日間に亘り「第二十九回中国曹洞宗青年会鳥取大会」が鳥取県米子市皆生温泉「皆生グランドホテル天水」を会場に「寺院の将来はどうなる？ 今、再生をかけて」と題して開催されました。定期的に心配しておりました天候も両日ともに恵まれ、中国管区の青年会員をはじめ、宗門寺院住職、寺族、他宗派寺院関係者など一〇二名のご参加をいただきました。

一日目は最初に慶應義塾大学商学部教授・中島隆信先生に「経済学的視点からみたお寺の将来像」と題し、寺院を市場経済という視点から考察していただきました。先生からお寺はお客様(檀信徒)が主役になっていないと指摘されました。さらに「信仰」という市場の中で消費者(檀信徒)のニーズに合わせるためには事業者(お寺)がもつとがなければならないといけないことばを述べられました。

二日目には「寺院の現状と課題」をテーマに中島先生、薄井先生、中国管区青年会長五名をパネリストに迎え、和田光史曹洞宗鳥取県青年会会長が司会をつとめ、ディスカッションを行いました。題材として、同年六月から九月にかけて管内青年会員に依頼したアンケート結果(回答率四一%)をもとに熱く語っていただきました。主に活動事例やお布施が論議の対象になりました。青年会員からは若い世代と触れ

求めるお寺——と題して、仏教ブームが感じられない現代の中で、先生が取材された寺院の中から興味深い教化活動例を紹介していただきました。取材を通じて、失敗を恐れずにごんごん活動をすべきであり、その活動はトップダウンではなく根元の部分からの活動でなければいけないと提言をいただきました。

今大会ではタイトルが示すとおり、現在の寺院が置かれておられる状況から、寺院の今後はどうあるべきかを青年宗侶の立場から考えていくことをテーマとしました。



講義Ⅰ 中島隆信先生



講義Ⅱ 薄井秀夫先生

合う活動など、今後の参考となるような生の声を聞くことができました。まとめとして、寺院は地域密着であることはもちろん受け身ではなくこちらからアプローチする行動を起こすことが寺院の再生・活性化につながるのではないかと司会者が締めくくりました。最後に両先生方から総括として、中島先生より子供の頃から宗教に触れさせることの重要性、薄井先生よりもつと寺報を活用すべきことのおことばをいただきました。

この二日間の中から自分なりの寺院の将来像を描き、それぞれの地域で必要とされる寺院にならなければいけないと強く感じながら大会の幕を閉じたことを報告いたします。

(曹洞宗鳥取県青年会)

事務局 倉瀧 英信(九拜)



ディスカッションの様様



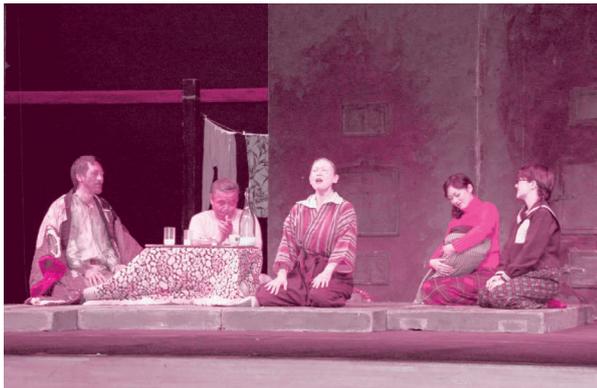
和田光史曹洞宗鳥取県青年会会長の導師による開講経緯



30回目の節目に心あらたにした大会記念法要

記念大会と  
いうこともあ  
り内容等慎  
重に検討し、  
テーマを一わ  
けへだてなき  
心やさしさと  
勇氣」とし  
ました。

劇団「希望  
舞台」に、人  
が人として生  
きる権利、即  
ち人権を尊重  
し差別のない  
世の中になる  
ようにとの思  
いが込められ  
た、水上勉氏作の「釈迦内枢唄」を公演  
していただきました。この劇は主人公  
が生まれ育った環境などから受けるさ  
まざまな差別や出会った人びとが受け  
る差別と、それに対する胸の内が表現  
されています。劇中の所々にある我々  
僧侶に対する厳しい言葉にはとどさせ  
られることもあり、今一度自己を見つ  
め直すとても良い機会を得ることが出  
来ました。



▲記念公演  
「釈迦内枢唄」



▶ボウリング大会

今大会には一般の方のご参加もい  
ただき大きな反響を頂戴いたしまし  
た。出来ることな  
らばもつと大勢の  
方がたにご参加い  
ただきたかったの  
ですが、劇の公演  
に際し中ホールほ  
どの会場が最適で  
人数制限をせざる  
を得なかつたこと  
が少々心残りでし  
た。しかしながら  
公演後に劇団員の  
方がたから「会  
場と一体となった  
舞台ができて感激で  
す」とお礼のお言  
葉をいただき、最

# 東海管区大会

わけへだてなき心やさしさと勇氣

去る十月九日に開催いたしました  
「第三十回東海管区曹洞宗青年会浜松  
大会」に際し、管区内各県曹青会員諸  
師にはご多用中にもかかわらず、ご参  
加いただき誠に有り難うございまし  
た。まず厚く御礼を申し上げます。  
今大会は、東海管区青年会の大会  
三十回目という節目であるとともに、  
開催担当をいたしました静岡第四宗  
務所青年会(照自会)発足三十周年の  
記念大会ともなりました。

良の選択だったと感じております。ま  
た、公演にあたっての舞台準備や会場  
設営・撤収作業を、劇団員の皆さまと  
共に当青年会会員がお手伝いさせてい  
ただき、一つの公演の舞台裏のたいへ  
んさや苦勞などを体験出来たことも大  
きな収穫となり、今後の青年会活動に  
おいても良き糧をいただいたと感謝し  
ております。

静岡第四宗務所青年会(照自会)

会長 前田 龍慧

## 水引・柱巻・五色幕・吊り幕装置

本堂内宅演出の時代へ！1人でも簡単に・安全に・きれいに



水引・柱巻・  
五色幕・別織物  
のご用命承ります。

手動式キット	115,000 円～(税込)
電動式	756,000 円～(税込)

※手動式キットは、送料を実費申し受けます。  
※電動式は、取付け工事込み価格です。但し、別途出張費が  
必要になります。



## 甦らせるリフォーム時代



ご法衣の洗い・シミ技 当店の洗いは、法衣専門の清洗いです。

## 潤色(染直し)

金襴袷装仕立替

ご法衣の修理

法衣丈直し ● 法衣胴裏替  
恩衣サン替 ● 袷装裏地替  
袷装紐替 ● 座具裏替  
立・工山帽子洗い仕立替  
甲中台替



KARASUDO

名右衛門 烏堂

法衣・仏具・贈答品・雅児衣裳  
〒457-0007  
名古屋市南区駆上二丁目1番2号  
TEL (052) 824-8900 FAX (052) 819-6445  
(地下鉄新瑞橋南徒歩5分)

# 曹洞宗広島県宗務所青年会

発 足：昭和39年  
 会 長：宇田治徳  
 副 会 長：吉津永泰・野上厚徳  
           中村賢裕  
 事務局長：用元龍司  
 事務局次長：坂上興道  
 会 計：岡本孝洋  
 会 員 数：63名

**曹** 洞宗広島県宗務所青年会は、昭和三十九年五月に設立され、現会長は十七代目になります。

**本** 会は、「会員相互の研修と教化活動、並びに親睦」を目的とし、四十五歳までの宗侶並びに寺院をもつて組織されています。現在、会員数は、六十三名です。

**会** 員の活動は、県全体の活動と、教区単位の活動とに分かれます。各教区では、略布薩、涅槃講式といった法式研修や、夏休みの子ども会、坐禅会を開催するなど、青年会の活動という以前に、ひとりひとりの自覚と道心によって、地道な活動をしています。県曹青としての主な行事は、総会、緑蔭禅の集い、高祖降誕会、ソフトボール大会があります。



夏休み ザ・禅 みんなしっかりとがんばりました！



緑蔭禅の集い  
河村孝道先生をお迎えしての眼蔵会開催

**総** 会は、毎年県内各地を持ち回りで開催しており、社会見学、陶芸、球技大会など、趣向を凝らした内容で、会員同士の親睦をはかっています。本年度の総会は、議事に先立ち、尾道市運西寺さまを会場に二炷の坐禅を行いました。

**緑** 蔭禅の集いは、毎年七月下旬に開催しています。昭和四十一年に広島市禅昌寺さまが、酒井得元老師を講師にお招きして三泊四日の眼蔵会を開催されたのを第一回とし、翌年より青年会行事として、毎年会場を変えながら、県内各地の寺院で開催されてまいりました。酒井老師には、三十年にわたって足をお運びいただきました。また、平成六年の県曹青三十周年の年には、特別記念講演をしていただくなど、県内宗侶はもとより、在家の参禅者にも大きな影響を与えてこられ、その功績は計り知れないものです。緑蔭禅の講師は、平成九年より、駒澤大学

**高** 祖降誕会は、一月二十六日の正当市百島の西林寺さまにおいて厳修いたしました。法要の後、小参、法話が、それぞれ会員によってなされました。あまり青年宗侶と接する機会のない檀信徒、梅花講員の方がたも、皆感激されたようでした。

**フ** トボール大会については、毎年秋に行われる中国曹青の大会には参加していましたが、本年度本会から西日本の各曹青に呼びかけて、五月、三原市において第一回西日本大会と称する新たな大会を開催しました。参加チームは少なかつたものの、ホームラ

子ども会 球技大会 やつぱり外が好きな～？  
みんなとても元気です！



子ども会 写経 一字一字集中して…

ン競争などの特別企画を取り入れて、交流いたしました。それ以外に、地元大学のソフトボール部や、社会人チームと試合をしたり、広島刑務所を慰問して、受刑者チームと試合をしたりしています。刑務所での試合は、本年度で三回目となりました。受刑者の方がたとスポーツを通じて交流することは、お互いにとっていい経験になります。普段から教師さんと接している方ばかりではありませんが、喜んでもらえるようです。仏教や僧侶が、もっと身近で親しみやすい存在だと気づいてもらえるように、これからも継続してまいります。

**今** 後も、諸先輩方の築いてこられた伝統も守りながら、青年僧としての柔軟な考えを持って、研鑽を積んでまいりたいと思いますので、ご指導のほどよろしく申し上げます。

合掌

# 世界の重層信仰⑥

## 日本における重層信仰

林 淳

### 一、シンクレティズムのイメージ

私は今、カトリック系の大学で、インドネシア、インド、ブラジルからの留学生たちを対象にして、日本の宗教史を解説する講義を担当している。あるとき、シンクレティズムという言葉を知っているかと質問したところ、参加者はみな知っていた。母国でキリスト教系の高校に通っていて、宗教の科目をとっており、そこでその言葉を教わり、聞いたことがあったという場合が多かった。インドネシアから来た、ある学生は、自分の祖父はカトリックの信者であったが、教会へ行く前、あるいは後に、自宅そばの川や木の神さまを拜む、という話を紹介し、シンクレティズムのイメージを語ってくれた。同じくインドネシアから来て、しばらく日本の教会で奉仕活動を行なった体験をもつ学生は、母国ではキリスト教という「宗教」とアニミズムという「文化」の融合が見られ、シンクレティズムだと思うが、日本に来てからの印象では、「宗教」と「宗教」が調和して共存している状況が日本にはあ

り、それもシンクレティズムではないかという意見を述べた。インドの留学生は、インドのカトリック教会では、ヒンドウー教の祭司が着るオレンジ色の衣を、神父も祭服に利用しているし、アールティーという供物の捧げ方も、カトリックが取りいれていると話してくれた。留学生が話した、それぞれの母国でのこうした具体的な話を聞きながら、私は自分のなかで、宗教の社会



的な諸形態についてのイメージが、より豊富に広がっていくのを感じた。

日本の宗教は、シンクレティズム、重層信仰であるという説は、多くの研究者が指摘してきたことである。仏教、キリスト教、神道、新宗教などが社会に定着してきた歴史と現状から見ると、シンクレティズム、重層信仰という用語に汎用性があることは、まちがいなかるう。しかし「日本の宗教はシンクレティズム、重層信仰である」という説を支持するにしても、その先、どのように議論を展開させるかは、人によって異なるであろう。かつて宗教学者、堀一郎は、日本の宗教史で、シンクレティズムと形容できるのは修験道と新宗教しかないと指摘して、安易なシンクレティズムの用法に警告を発していた(注1)。そして、そもそも重層信仰とシンクレティズムを同義に使うてよいかどうかも、検討の余地はある。

### 二、シンクレティズムの用法

私は以前、議論の整理のために、シンクレティズムの分類を試みたことがあった(注2)。インドのヒンドウー教、パキスタンのイスラム、タイの仏教のように、一つの有力な宗教が多数派を占め、国教的な役割を果たしている社会と、日本、韓国、台湾のように、複数の宗教が並存している社会とを区別して、前者の社会でのシンクレティズムと、後者の社会でのシンクレティズム



とを分けてみた。一つの有力な宗教が、土着的な多様な文化要素を組みこんだ状況と、複数の宗教が共存し協調する状況とは、別なことなので、そこに分割線を引こうとした。それぞれを、シンクレティズムA、シンクレティズムBと呼び、南アジアと東アジアの地域的な特色の違いでもありと述べたことがあった。

現在の私は、シンクレティズムのAとBの区分は、ある程度有効だと思っているが、並置できる関係にはないと考えるようになり、地域の違いにまで言及したのは言いすぎであったと反省している。シンクレティズムAと称した現象は、世界宗教(この言葉自体の歴史性が問題になっているが、ここでは仏教、キリスト教を念頭におく)と



という言葉を使うと、世界宗教が、伝播した地域の土着的文化要素を包摂し、意味づけることであつた。それは、「世界宗教によるシンクレティズム」と呼ぶことができると思う。日本宗教史の例でいうと、仏菩薩が神となつて垂迹したという本地垂迹説や、僧侶による中世神道論などがそれにあたる。インドの留学生が教えてくれたカトリック教会で、オレンジ色の祭服を使用し、アールティーを行なうことも同様な例であろう。この場合には、世界宗教側に主体性があり、包摂し、意味づけを行なう能力が備わっている。「世界宗教による文化適用（エンカルチユレーション）」とすることもできよう。

私が、シンクレティズムBと呼んだ事態は、これとは違って、社会と宗教

の関係の次元で起こる現象であり、当該社会に複数の宗教が並存し、協調している点に特質があつた。これについては、シンクレティズム、重層信仰と形容するよりも、「社会における複数の宗教の並存」と言うべきかもしれない。日本でも韓国でも同じことがあると、別な授業で話していたときに、韓国からの学生からクレームをうけたことがあつた。韓国ではキリスト教も仏教も並存しているが、キリスト教徒は、誕生、結婚、葬儀などの人生儀礼をキリスト教式で行ない、仏教徒は仏教徒で、仏教式に人生儀礼を営む。それに対して、日本では一人の人間が、教会で結婚式を行い、葬式は仏教僧に頼むというやり方になっている、というのである。これは、たしかに韓国の学生の指摘に一理ある。多くの日本人が宗教を使い分けの事態を、「受容者・ユーザーによる宗教の使い分け」と私は表現したが、こうなると、受容者・ユーザーの側には、宗教であるという意識はしごく希薄であることが予想される。一つの家に、仏壇と神棚が備えられているという状況もまた、日本人の宗教の使い分けの一例であろう。

### 三、比較研究のために

私の暫定的な見解は、以下の通りである。シンクレティズムを使うとしたら、「世界宗教によるシンクレティズム」に限定したい。これは世界宗教が伝播したところには、世界中のどこに

でも見られる多様な現象であり、比較研究に資するという意味もある。「社会における複数の宗教の並存」は、東アジアの諸国では伝統的にあつたことだが、人の流れが激しい現代社会では、ひろくあちらこちらで起こっていることである。移民が流入する社会では、この傾向に拍車がかけられていることであろう。この「並存」が「協調」を約束するものではないが、並存状況に対して、シンクレティズムを使用しない方がよいと思う。そして「受容者・ユーザーによる宗教の使い分け」も、シンクレティズムと称するべきではない。もし日本人による宗教の使い分けを、シンクレティズムと形容するのなら、シンクレティズムは、日本文化の特殊現象となつてしまう。日本人だけがシンクレティズムを独占したとしても、さして面白いことではなからう。

(注1) 堀一郎『聖と俗の葛藤』平凡社 一九七五年、一五四頁

(注2) 林淳「仏教とシンクレティズム」『宗教人類学』新曜社、一九九四年、同「シンクレティズム」『世界の宗教』放送大学教育振興会、一九九五年

### ○林 淳（はやし まこと）

一九五三年、札幌生まれ。東京大学文学部宗教学科、同大学院を修了。現在、愛知学院大学教授。博士（文学）を東京大学で取得。著書に、『近世陰陽道の研究』（吉川弘文館）、「天文方と陰陽道」（山川出版社）、「陰陽道の講義」（共編、嵯峨野書店）、「異文化から見た日本宗教の世界」（共編、法蔵館）など。

授与品・記念品・その他 寺院用品



井筒 授与品部

〒601-8348  
京都市南区吉祥院観音堂町23番地

TEL 0120-075-820  
TEL 075-672-8100

FAX 0120-075-890



日本古来の伝統の技を伝承し、最新技術と調和する。  
魚津の設計と施工



大本山永平寺名古屋別院 山門（総構造 免震構造）

神社・仏閣専門建築  
株魚津社寺工務店

〒454-0004 名古屋市中川区西日置2丁目12番20号  
電話 (052) 331-3080 <http://www.uotashiji.co.jp>

# 禪

## 知識

### ゴータマ・ブツダと瞑想

## まんだら(7)

青森公立大学教授 羽 矢 辰 夫

#### 一、目覚めと瞑想

ゴータマ・ブツダ（釈尊）は瞑想をして目覚めた人、ブツダになったといわれています。原始仏教経典には、ゴータマ・ブツダが行なったとされる瞑想がさまざまな形式で説かれています。しかし、ゴータマ・ブツダが実際にどのような瞑想を行なったかを確定することは、いまだにできていません。わたしたちにとって重要なのは、ゴータマ・ブツダがどのような瞑想を行なったかをつきとめるのではなく（現実にはできないことです）、目覚めの本質を見極め、目覚めと瞑想との関係を理解することです。そしてできれば、みずからも実践することです。目覚めとは、人間であれば、だれでもが実現できるものです。しかし、何もしくなくではけつして得られることのないものでもありません。

#### 二、苦しみの自覚

わたしたちは成長するにしたがつて、自己と自己以外のものとの区別をおぼえていきます。日常的にことばを使って思考することが、その区別にいつそつ拍車をかけ、自己と自己以外のものはまったく分離しているかのよ

うな錯覚にいたらしめまます。なぜなら、ことばにはもともと、そのことばとそれ以外のものとの分離するという性質があるからです。たとえば、「時計」ということばを使うと、その時点ですでに、わたしたちの意思とは関係なく、時計と時計以外のものが分離されているのです。

このことに気づかないまま、わたしたちは「わたし」ということばを日常的に使い、生まれたときからずっと、「わたし」と「わたし」以外のものとの分けて生きてきました。そうして、自己分離的で自己中心的な認識の形態を身につけ、その結果として、「わたし」が他と何のつながりもなく孤立し、「わたし」だけで永遠に存在しているかのような錯覚をもってしまっています。ゴータマ・ブツダは、永遠に存在するはずの「わたし」に対して過剰に執着するところから、わたしたちの老・病・死にまつわるものもろの苦しみがもたらされることを洞察しました。永遠につづくべき「わたし」が、なぜか老い、病み、死んでしまふ、この矛盾に、わたしたちは心底ふるえあがり、どうしようもない恐れや不安をいだくのです。

#### 三、苦しみの解決と瞑想

瞑想とは、ことばによって分断されたいわば仮想の世界を後退させ、あるいは実質的に機能させないための最も直接的で効果的な方法である、と伝統的に考えられてきました。瞑想を実践すると、ことばを使うことによって無意識のうちに固着化した、「わたし」への過剰な執着をほぐすことができます。それは、何も考えない、何も感じない状態ではなく、むしろあらゆるものに対してきわめて鋭敏な状態です。身心がリラックスしてくるにしたがつて、まわりの世界が動きはじめたり、あざやかな色彩をともしなつたり、イメージが現われたりします。聞こえる



はずのない音や声がかた聞こえたりもし、匂いにも敏感になります。意識が変容しはじめる、このような初期の段階をすぎると、身心のかたくななブロックがゆるみはじめ、生きぬいてきた過程でみずから押しこめてきた精神的な抑圧が解放されたり、あるいは身体的な抑圧が解放されたりします。このあたりは心理療法的な意味で、慎重な注意が少なからず必要な段階です。さらに人によっては、過去を思いおこしたり、未来をかいま見たりするようにもなります。通常では考えられないようなことが起こつたりしますが、それはあくまでも副産物であることを理解しなければなりません。想像を絶するところもない副産物の不可思議さや神秘性にこそ奪われて、本来の目的を忘れてはなりません。

さまざまな段階を経るにつれて、自己を守りもすれば孤立もさせる、自己と自己以外のものを分離する壁のようなものが薄くなります。ことばによって明確に分離されているかのように隔てられていた境界があやふやなものになります。全体と一体化したような感じも味わえます。このような段階で、自己と自己以外のものとの分離感や、つながりなく「わたし」だけで存在しているかのような孤立感が癒されるのです。図式的にいえば、瞑想などの実践の究極において感得した全宇宙、全存在との一体感により、わたしたちが錯覚していた世界との分離感や孤立感が癒され、永遠に存在するはずの「わたし」に対する過剰な執着は解消されて、そこに起因する、死に対する恐れ

お知らせ 第2回「禅知識まんだら」実践版

チベット仏教講習会  
—チベット仏教って何だろう?—

当会では、「チベット仏教講習会 —チベット仏教って何だろう?—」と題して、下記の要領で講習会を開催いたします。

日本ではあまり知られていないチベット仏教ですが、インドの大乗仏教を最も直接的に継承していると言われておりますし、その指導者であるダライ・ラマ法王は、世界的に著名な方です。

今回は、チベットにおける僧院の生活を、実際に体験していただきます。

この機会を通じて皆さまの見聞を広げていただくため、是非ご参加下さい。

記

期 日：平成19年2月21日(水)午後1時30分～  
22日(木)正午まで  
1泊2日

会 場：大本山永平寺東京別院  
講 師：野村正次郎先生

(「そうせい」134号執筆者)  
他チベット人僧侶2名

講習内容：①チベット仏教の概要(スライド使用)

②懺悔法等の儀礼

③砂マンダラ製作

※部分参加可。

参加者：僧侶、一般問わず、どなたでもご参加いただけます。

参加費：1人 5,000円

申し込み方法：郵便番号、住所、氏名(寺院名)、電話番号を明記し、受付担当までFaxにてお申し込み下さい。事前に講習会資料を送付いたします。

申し込み先：Fax 0495-33-8255

受付担当・広報委員会 武田光誠 まで

や不安はなくなるのです。  
ゴータマ・ブッダの究極の目的は、この「わたし」を根源として生じる苦しみを消滅させることでした。そのためには、自他分離的で自己中心的な認識の形態を、自他融合的でいわば全体中心的な認識の形態へと転換させなければなりません。瞑想はこの目的にいたるための一つの有効な方法なのです。

四、結び

瞑想すれば無条件で目覚められるというわけではありません。自己中心的な欲望をそのままにして瞑想を究めようとしても、それは苦しみの原因をつくるだけであり、何の解決ももたらしません。健全で安定した生活のうえになされる瞑想に意義があるのです。通常の生活を調べ、瞑想によって認識の

形態を転換し、智慧によって自己中心性をのり超えて、苦しみの消滅へと向かわなければなりません。

また、認識の形態が転換されるとはいつても、わたしたちが現在もっている自他分離的な認識の形態がまったく失われるわけはありません。それを含みながら包みこみ、わたしたちの生存の基盤となる認識の形態がシフトするのです。一つの全体のなかで、それぞれの存在が融合しつつ緊密なつながりをもつ、という意味での関係性を中心とする認識の形態へと成長していくのです。

それは、わたしたち一人ひとりの問題であり、各自が自立しながら、なお根底のところまでつながりあっているという実感強くもつということなのです。



○羽矢 辰夫 (はや たつお)

一九五二年、山口県に生まれる。一九七五年、東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。一九八三年、同大学院人文科学研究所印度哲学専攻博士課程単位取得退学。その後、財団法人東方研究会の専任研究員などを経て、現在、青森公立大学教授。仏教の原点としてのゴータマ・ブッダの思想の究明、および仏教的な考え方が二十一世紀に生きるわれわれ自身にとって、どのような意義があるか、ということについて研究をつづけている。主な著作に、「ゴータマ・ブッダ」、「ゴータマ・ブッダの仏教」(いずれも春秋社)がある。



**洗える高級新素材専門**  
全国御寺院様専門、御自坊出張販売  
**スペシャルオーダーメイド システムメーカー**

御誂 作務衣・頭陀袋・法衣・白衣・別注品 専門処  
創業 50余年 (株)坂口衣芸工房

〒501-6236 岐阜県羽島市江吉良町1115番地  
Tel 058-392-3121 Fax 058-392-5589  
http://www.s-samue.com E-mail info@s-samue.com  
多少にかかわらず社員一同お待ちしております

# 賛助会員御芳名

平成18年8月

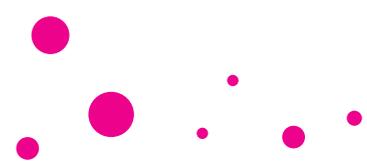
平成18年10月

390	383	381	127	119	118	46	27	16	10	2	352	262	239	389	386	333	317	292	200	89	72	51	42	東京都					
善光寺様	観音寺様	興禅寺様	寿昌寺様	泉秋寺様	永昌寺様	養周院様	東林寺様	正観寺様	随流院様	西有寺様	吉祥院様	松岩寺様	潭広院様	安立院様	立川寺様	龍昌寺様	雲慶院様	龍雲寺様	乾晨寺様	祝言寺様	浄牧院様	宗福寺様	泉岳寺様	慈眼寺様					
83	81	57	46	22	309	276	231	194	189	142	115	99	83	77	3	490	468	339	331	206	401	64	24	16	埼玉県				
安養寺様	昌泉寺様	満福寺様	龍昌寺様	龍蟠寺様	永福寺様	陽雲寺様	泉福寺様	善宗寺様	神應寺様	建明寺様	無量院様	龍傳寺様	常仙寺様	龍門寺様	龍海院様	大洲寺様	広見寺様	清見寺様	曹源寺様	栄林寺様	東竹院様	寿楽院様	千手院様	慈眼寺様					
77	50	9	457	406	229	207	98	49	316	309	95	29	28	9	8	7	5	3	1	197	166	63	49	32	茨城県				
龍泉院様	盤龍寺様	然正院様	正福寺様	光福寺様	常幸院様	光沢寺様	東林院様	永安寺様	瑞竜院様	満願寺様	寶應寺様	慶林寺様	長福寺様	東昌寺様	重俊院様	満蔵寺様	東禅寺様	宝成寺様	総寧寺様	長龍寺様	東光寺様	常光院様	東漸寺様	龍泰院様					
629	624	259	249	184	161	111	109	28	5	1115	1112	1099	1055	1023	678	589	339	228	501	459	388	198	136	静岡県					
神龍寺様	浄泉寺様	玉林寺様	安祥寺様	瑞雲寺様	宝珠寺様	龍興寺様	善昌寺様	長松院様	功徳院様	福蔵寺様	大安寺様	宿廬寺様	大心寺様	観音寺様	宗心寺様	永竜寺様	龍豊院様	耕月寺様	養徳寺様	洞雲寺様	林叟院様	養雲寺様	真如寺様						
355	354	73	74	24	394	371	445	315	276	36	242	179	162	157	74	36	527	438	902	684	1066	京都府	滋賀県	三重県	愛知県				
龍猷寺様	蓮華寺様	春現寺様	総寧寺様	海蔵寺様	光福寺様	光明寺様	地蔵院様	薬師寺様	地蔵院様	法安寺様	桃春院様	金竜寺様	清楽寺様	玉泉寺様	観修寺様	薬王寺様	永泉寺様	吉祥寺様	慈眼寺様	花井寺様	花井寺様	薬師寺様							
190	63	60	46	34	17	6	3	115	14	4	235	210	188	393	388	370	338	324	302	287	10	11	1	107	94	40	26	大阪府	
檀上一様様	徳寿寺様	長福寺様	香積寺様	雙照院様	吉祥寺様	存光寺様	禅昌寺様	養徳院様	草間寺様	三光寺様	威徳寺様	神光寺様	十方寺様	興禅寺様	安養寺様	金剛寺様	明善寺様	勝竜寺様	願成寺様	月照寺様	向榮寺様	福田寺様	全正寺様	運川寺様	実相院様	黄梅寺様	伊勢寺様	天徳寺様	
3	164	102	31	13	184	111	70	69	66	63	59	42	8	285	253	172	159	143	114	17	245	207	182	172	153	145	60	42	山口県
安国寺様	城慶寺様	高德寺様	千如寺様	願成寺様	宗圓寺様	万蔵寺様	完全寺様	龍雲寺様	浄心寺様	龍覚寺様	清光院様	常德寺様	祐福寺様	永昌寺様	西光寺様	普門寺様	大祥寺様	瑞応寺様	安楽寺様	普含寺様	常関寺様	向徳寺様	西堂寺様	広福寺様	善住寺様	久屋寺様	慶雲寺様	護国寺様	





# あまんず そうせい



## “拓”（ひらく）

長野県東昌寺副住職 飯島 恵道

年が明けた。昨年は「人間の尊厳」が踏みにじられるような痛ましい事件が多かったように思う。何気なく言われた一言に傷つき、我慢に我慢をかさねたがとうとう耐え切れなくなり、幼くして死を選んだという報道を耳にするのは、この上なくつらいものである。

私自身、尼僧として生きる中で、相変わらず「不条理と生き苦しさ」を感じている。まあ、私の修行の足りなさや未熟さゆえの困難というのが殆どであろうが、しかし、それだけでは説明しきれないようなことも多い。

戦後、男僧と尼僧の差別は撤廃された。「制度上は」というのはなし。制度が変わろうとも、それを行使する人間が変わらなければ、社会が変わらなければ、そのような制度は無いに等しい。制度が整った後、先達がそこに注ぎ込んだのと同量のエネルギーを、宗門あげて制度の維持発展のために注ぎ込んでいるかと言えば、おそらくそれはできていない。その証拠に、先達のご努力により形作られた制度と、(尼僧が)獲得した権利は最大限に行使しきれしていない。何よりも、尼僧の痛みに対して無関心な宗侶が多すぎる。道を切り開いてくださった先達の思いを受け継ぐにはいかにすべきか。すぐに答えは出ないが、このままでは「生き苦しさ」が増すばかりである。後に続く者がこの道を安心して歩けるように、道の大補修工事が必要であろう。

年に一度、宗門尼僧団の総会、講習会がある。その折、多くの先輩尼僧諸師と接することができ、色々なお話を伺うことができる。聞けば聞くほど、たいへんな思いを

してお寺を護っておられるということが切々と伝わってくる。けれども、ちょっとした失敗を若手の男僧に嘲笑された、とか、地域のご寺院の法要に参加したが、足が痛くてお拜ができなかったためイスを拝借して随喜していたら、「お拜ができない者は、出てくるな」みたいなことを言われた、とか、あまり聞きたくない話もあった。いずれにせよ、他愛も無い悩みかもしれないが、これが積み重なると存在の深い部分を侵食する痛みを発展しかねないようなにも思う。

体の痛み、心の痛み、社会の痛み、それらが存在の深部まで到るとき、生存の痛み（スピリチュアルペイン）に発展する。即ち「生を脅かすほどの痛み」に発展するということだ。尼僧であるが故のスピリチュアルペイン。それが私の「尼僧としての生」を脅かす前に、スピリチュアルデスに陥る前に、なんとか手を打ちたいと思うのだ。今年はこのと正面きって向きあいたいと思う。そしてそれが拓かれるために何が必要か、一歩踏み込んでみたいと思う。

### ◇筆者プロフィール◇

飯島 恵道 (いじま けいどう)

長野県松本生まれ。尼寺育ち。生と死、命をキーワードに、僧侶としての活動の中で、看護師資格をいかせる現場を模索中。

寺院用仏具・仏壇・製造販売  
曹洞宗梅花流法具販売指定店



# ほう 光

本店・工場	〒940-0825	新潟県長岡市高畑町617番地	☎(0258)33-5644
新潟店	〒950-0941	新潟市女池2丁目2-11	☎(025)280-1550
川越店	〒350-0036	川越市小仙波2丁目20-1	☎(049)227-7666
高崎営業所	〒370-0046	群馬県高崎市江木町1179-2	☎(027)324-3721
長野営業所	〒380-0911	長野市稲葉1980-1	☎(026)222-3811

<http://www.hoko-butugu.com/>



# 寺族の窓



新潟県新潟市 瑞光寺寺族 桑原 玲子

昔「七人の孫」というTVのホームドラマがありました。あれから何年経ったのでしょうか、今私自身が七人の孫を持つ身となりました。

思えば北海道出身の住職と東京生まれの私が結婚し、新婚家庭を東京で築き始めた時、全く突然の佛縁により夫婦で新潟のお寺へ養子として入ることになりました。これが佛さまのお導

きなのでしょいか、佛道に仕えた事もない私にはそれこそオロオロするばかりで、関東から北陸の季節に慣れるまで相当時間がかかりました。今では雪が少ないですが、その当時は大雪が積もり、雪おろしの仕事がいへんで太陽が待ち遠しかったことを思い出します。その時は、ガスはプロパン、風呂は石炭、庫裏は板張りで雑巾掛けの毎日、境内にはケヤキ・イチヨウが葉を広げ、秋には落葉掃除が日課でした。住職は永平寺に上山していて、長男がようやく一歳になったばかりだったので、何も考えぬ暇などあるはずもなく、無我夢中で過ごした数年間でした。

お寺の生活は初めてですから、礼儀

作法を覚えたり、お客さまの接待など判らぬながらも兎に角「ニコヤカ」に「明るく」をモットーとして健康であることに一番注意をしておりました。

こうした生活に少しずつ慣れながら気が付けば四人の子どもに囲まれ、一人をあやせば一人が泣くという子育てに追い回される日々を今でも思い出します。

一方子どもの成長につれて目立つのは養父母の衰えでした。それでも先代の住職は八十八歳の長寿を楽しみ「なんだかんだで八十八年なるに任せて上機嫌」と晩年は庫裏で子ども達と接することを喜びとし、大往生をいたしました。そして、数年で養母もゆつたりと旅立ち、何か大きな仕事を終えたような気持ちにもなりました。その頃には長男、次男が僧侶になる道を選んでくれました。この道選びにはお寺だけでなく、檀信徒の皆さまの存在も大きく、何事につけて僧侶の道を目指す様に諭されたことが影響しており、深く感謝しております。

二人が上山した時、ごく当たり前前

の母親となつていろいろと心配したことも今思えば懐かしいセピア色の思い出です。子ども達も三人が結婚し、それぞれの家庭を築いていて、孫が七人という環境になったのですが、別世帯となつてはいても押し寄せてくる孫たちの世話に追われ、楽しくはあるのですが連続して休みが取れないという贅沢な愚痴を言わせていただいております。しかし孫は可愛いですね。方丈さまが孫をお風呂に入れる時は「佛さまを抱いていると言っておられます。」

もつとも今は忙しいたいへんだとは言っても一日中追いまくられている訳ではありませんので、余裕をもって接することができると余計に可愛いという感情を持つのかもかもしれません。結婚からすでに四十年、思い返せば色々なことがありましたが、普通の家庭と違う環境の中でたいへんではありましたが、過ごしてこられたことは、ひとえに佛縁ということばに包含される感じます。そのありがた味がスーッと体の中に入る様になった経験と、年輪を喜びつつ毎日を「報恩感謝」の気持ちで暮らしております。この縁を有り難く念じながら、次の世代に継いでいく上で、少しでも手本にしていけたらと思います。これまでのささやかな気持ちを一文とさせていただきます。

合掌

## 幻の名著 杉本俊龍 老師 著 『龍華』 覆刻

室内学住職学の研究成果集。私共の種々の疑問に答えています。伽藍、仏具、経典、仏前供養、葬儀、年忌、質疑応答、從容録提唱(第一則から第七則まで)。拾遺篇には宗報、傘松、跳龍、銀杏、暁星、優曇華、道元誌、教学時報の各誌で発表された論考を網羅集録。読み易い様に全て項目別に編集されています。

本文 1,700頁 布装 函入り A5版  
著者：杉本俊龍老師  
発行：滴禅会  
頒布価格：25,000円 / 冊  
(梱包、送料含む。滴禅会会員は 20,000円 / 冊)

ご注文は下記に葉書またはFAXにて  
電話番号、郵便番号をも御記入の上、お申し込み下さい。

◆滴禅会事務局  
〒326-0803 栃木県足利市家富町2523高福寺内  
TEL 0284(21)6206 FAX 0284(21)6218  
口座名：滴禅会 口座番号：00120-8-296114

### 転偏円

全国の曹青会では、五、六月と、十一月にかけて管区大会が多く開催される。どの大会も現在青年宗侶が抱える問題が多くとり上げられる。昨年、全ての大会に出向させていた中で、同じ先生に二度お逢いし、お話しを伺うことが出来た。

慶応大学商学部の中島隆信教授は、『現代のお寺が抱える問題と今後の生き残り策について』と題し、宗派を問わず講演をされ、多くの著書が出版されている。

檀家制度によって庇護されてきた寺院が、近代になり人の移動が始まると、檀信徒との長期的な関係が崩れ、必ずしも固定客としてあてに出来なくなる。そこで、新たな信者を確保するためのサービスをいかに生み出すか。そのためには、これまで難色を示してきた現世利益というサービスも、今は顧客に対応する手段として必要なのではないか、と経済学の視点から我々に提言をされている。

そして、寺院再生を図る方途として、墓をお寺から切り離し、檀家制度を一度完全に解消する必要性を訴える。更に、「現在のままでは信者はお寺を選べない。まずは信者に選択の自由を与えるべきである。そして本当にお寺に来たいと思う信者だけを改めて集めなおせばよい。その時はじめて、住職の真価が問われることになる。宗派の教えをわかりやすく説き、信者の心を引き付けるのできる僧侶が支持されるだろう。住職は別に世襲でも構わないが、後継者をつかり育てておかないと、住職の世代交代と同時にお寺離れが起きる可能性もある」と結んでいる。

近年の曹青会の研修会で寺院再生がテーマに取上げられるようになってきたのもひとつの特色である。我が身に引比べてみなければならぬと思う。

全国曹洞宗青年会会長 宮 寺 守 正

### 書籍紹介

## 老師と少年

南 直哉 著

南師と言えば、本誌でも度々登場され、その博覧強記ぶりと特異な表現能力で内外に刺激的な言説を発信し続け、宗門きつての論客として認知される一方、本誌読者には「物言う禅僧」という強面のイメージを抱く方もおられるかもしれない。

その南師の新刊は、「道」に迷う少年と行者である老師が、九夜に渡って交わす夜参問答、という体裁だ。「気づき」を契機とした、「自分」としての生き難さと世知の解体、そして「問い続ける」修証論など、大筋は従来の教説を踏襲しているが、その読後感は従来とは大いに異なる。

過去の著作の方が圧倒的に文量も多く論理的だが、本書はそうでない分、読者に行間を読ませる余地を残している。老師の教えの深淵を理解しようとするだけでなく、老師と少年それぞれの人となりや生い立ちにまで思いを巡らすのだ。

また、それぞれの発言の始まりに「〇〇よ、～」と互いを尊称で呼び合うのは、本書が「経」を下敷きにしていることを窺わせる。従来よりも筆致が柔らかい印象を受けるのは、「論」ではなく「経」を志向した所産であろう。

そして、何より本書の読後感を決定づけているのは、表題には登場しない第三の登場人物、老師の世話をする少女の存在だ。少女は老師や少年と違い、それほど「苦」に深刻でもなく、「道」に関心が高いとも言えない。かといって決して愚者という扱いはなく、言わば心優しき「道」の傍観者という位置付けだが、その少女の視点が「夜毎繰り返される男同士の濃密な交感」を緩衝して読者との間を取り持つ装置となっており、本書に風通しを与えている。このような視点（平衡感覚と言っても良い）こそ従来には無かった新境地と言える。邪推になるが、南師の人間関係の近況を反映しているかも知れない。

いずれにしても、本書での南師の教説・思想が沈積でなく開放したものであることを少女が証明しており、その少女が「経」の結語を担っている点も含めて、南師の今後を展望する上で大変興味深い。



(板) 新潮社刊 定価950円(税別)

### 編集後記

今号が発刊されている頃は、二〇〇七年。改めていうのも何であるが、とても時間の感覚が速い。時空論などとも難しいとは言えないが、無常迅速そのものであると感じます。

「生死事大 無常迅速 各宜醒覺 謹莫放逸」が、何故木板に書かれているのか、何となくわかったように感じる現在午前四時。叩いた音は、叩く人の力と叩かれる木の存在。その両者が相まって「バツツ」と鳴る。その瞬間だけ聞こえるというのなら、「有時の而ん即ち無時の事実相とわからなければならぬのであるが、日常生活の中においては、そのようなきつかけ（音など）は、ついつい便宜や雑音として考えてしまう。このように考えられただけでも有難いです。さて、今号での禅文化学林九州大会の講演・意見等を拝聴し、自身の考え方に幅が増えたように感じた。それは、活動といってもさまざま形態があることとあります。災害などでは、実際に現場で報告・連絡することや、作業・炊き出しすること。現場から離れて、報告・相談すること等々。実際に災害が起きた時、巨大な自然の力を前に一人人間の出来ることは小さいかもしれないが、結果して大人数で備えれば無限の力になると感じました。「このような活動はしなくても大丈夫だろう」という断定は、誰しも出来ないはずであります。意見交換会でも仰っておりますが、防犯と防災が地域に根ざす活動になることが、これからの時代に必要性が益々生じていくのかもしれないと。昨年の「今年の漢字」にも象徴されたように「節」ということが世相を表しました。本年は、明るい世相になってほしいと願います。新年早々、今と自分を照らし合わせて過こしてゆきたいです。本年も「SOURCE」を宜しくお願ひ申し上げます。

合掌

「そうせい」に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

○あて先 〒三六九-〇三〇-一

埼玉県児玉郡上里町金久保七〇一

陽雲寺内 そうせいサロン係

FAX 〇四九五-三三三-八二五五 武田まで

# 餅とじゃがいもの 市松模様揚げ

残りの餅をアレンジしてみても



## 材料（4人分）

切り餅	4個
じゃがいも	2個
すだち	4個
小麦粉	50g
片栗粉	50g
水	60cc
醤油	大さじ2

## 作り方

- ①餅とじゃがいもを同じ大きさに切る（目安は親指の大きさ）
- ②ボールに小麦粉、片栗粉、水を一緒に入れ①の食材を同時に混ぜる
- ③オタマにクッキングペーパーをのせ、その上に互い違いに餅とじゃがいもを合わせて揚げる
- ④ゆっくり慌てることなく、火が通つ

みなさん、あけましておめでとうございます。器には、さまざまな色と形があります。盛り付けられる食材によって作り手の配慮があることでしょう。『器は料理を引き立たせる着物』とも言われてきました。以前「何故丸い形の器が多いのか？」と尋ねられたことがあり、戸惑ったことがあります。そこで、ある老僧がおっしゃっていた一言を思い出しました。『丸い器、それは人間が両手で器から水をすくう動作から、水をいただく感謝の形ということから丸い形になっている』のだと。

新年を迎えて、今この瞬間を精一杯に生きる、同時に食前食後の挨拶を言葉に発して作ってくれた方に対して、感謝を表現することを互いに誓い合い、今年みなさん元気で過ごしましょう。

たら引き上げ、もりつける  
\* いろいろを考えると、じゃがいもの代わりに人参や南瓜でも綺麗に仕上がります

文 白澤 雪俊（しらさわ せつしゅん）

昭和四十五年、青森県弘前市生まれ。十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学（仏教科）に学ぶ。卒業後一年間東京都港区の青松寺に隨身（住職にお任せし学ぶ修行僧として過ごした後、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間のうち、約三年間を典座寮に配役される。永平寺送行後、大本山永平寺東京別院長谷寺副典として再安居。現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、精進料理に関する講演などの布教活動に務める。

著書：『身体にやさしい料理をつくろう』（ニエートンプレス）  
ホームページアドレス  
<http://www6.ocn.ne.jp/~yamakan/>

# そうせい美術館

S O U S E I G A L L E R Y



## 千の祈り

病氣を通じ多くの人と出会い励まされ続けてきた“頂きっぱなし”の人生の中で、今回、初めての恩返し作品。今まで元気をくれた仲間達に、そして、今、いろいろな事に苦しみながらも懸命に闘う誰かに。この一羽一羽に込めた“ありがとう”と“一緒に頑張ろう”が、一人でも多くの一つ一つの心に届きますように…

## 作者プロフィール

すずき ゆか (鈴木由香)

1971年生れ。静岡県富士市在住。  
卵巣嚢腫、卵巣腫瘍破裂、子宮頸癌、子宮内膜症、若年性更年期障害、狭心症、過換気症候群など17歳から現在までに8回の入院生活を経験。2003年、書画集“だって泣いちゃうもん”（文芸社）を全国出版。現在は、講演、文化施設などでの作品展を行う。